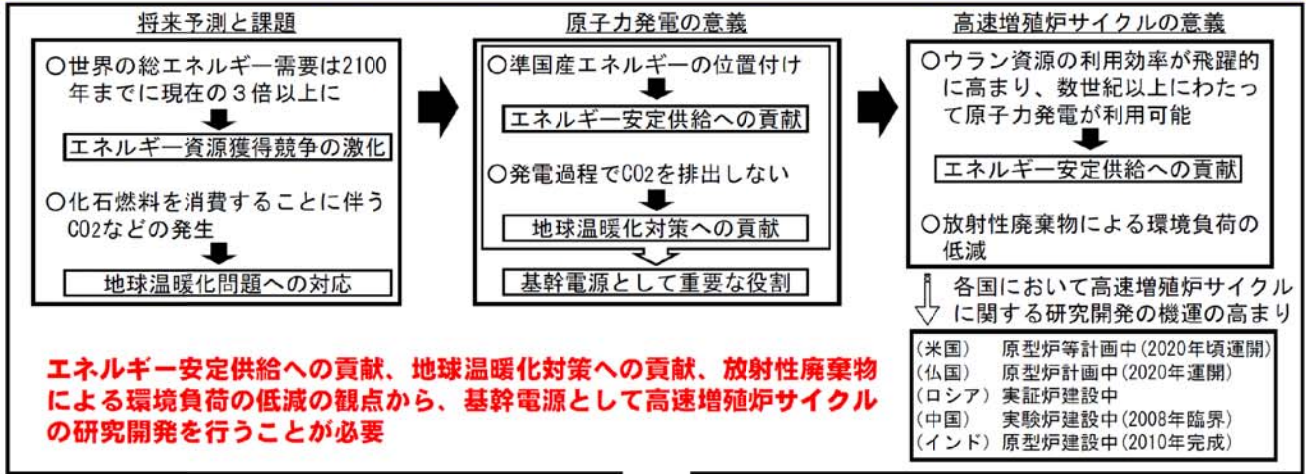


高速増殖炉サイクルの研究開発方針について

平成18年12月27日
文部科学省 研究開発局

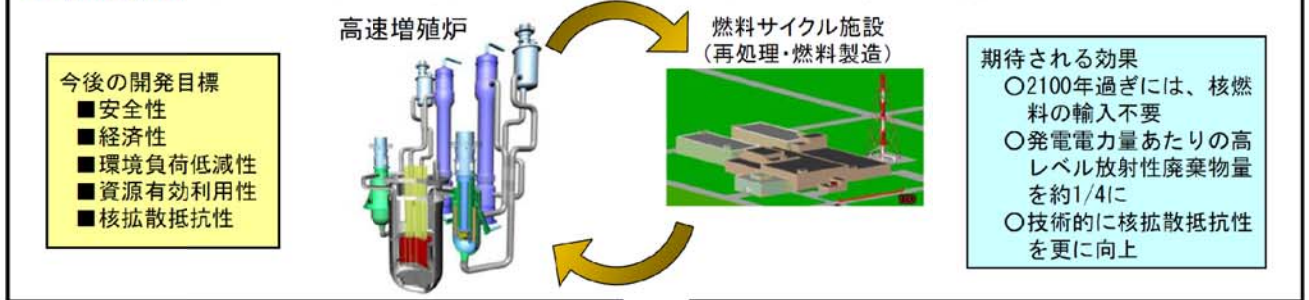
高速増殖炉サイクルの研究開発の意義



今後主として研究開発する主概念を選択

(現在の知見で実用施設として実現性が最も高いと考えられる実用システム概念を選択し、研究開発を集中して実施)

「ナトリウム冷却高速増殖炉(MOX燃料)、先進湿式法再処理、簡素化ペレット法燃料製造」の組み合わせを選択



2015年までの研究開発の進め方

実用化を目指した研究開発ロードマップ



2015年までの研究開発計画

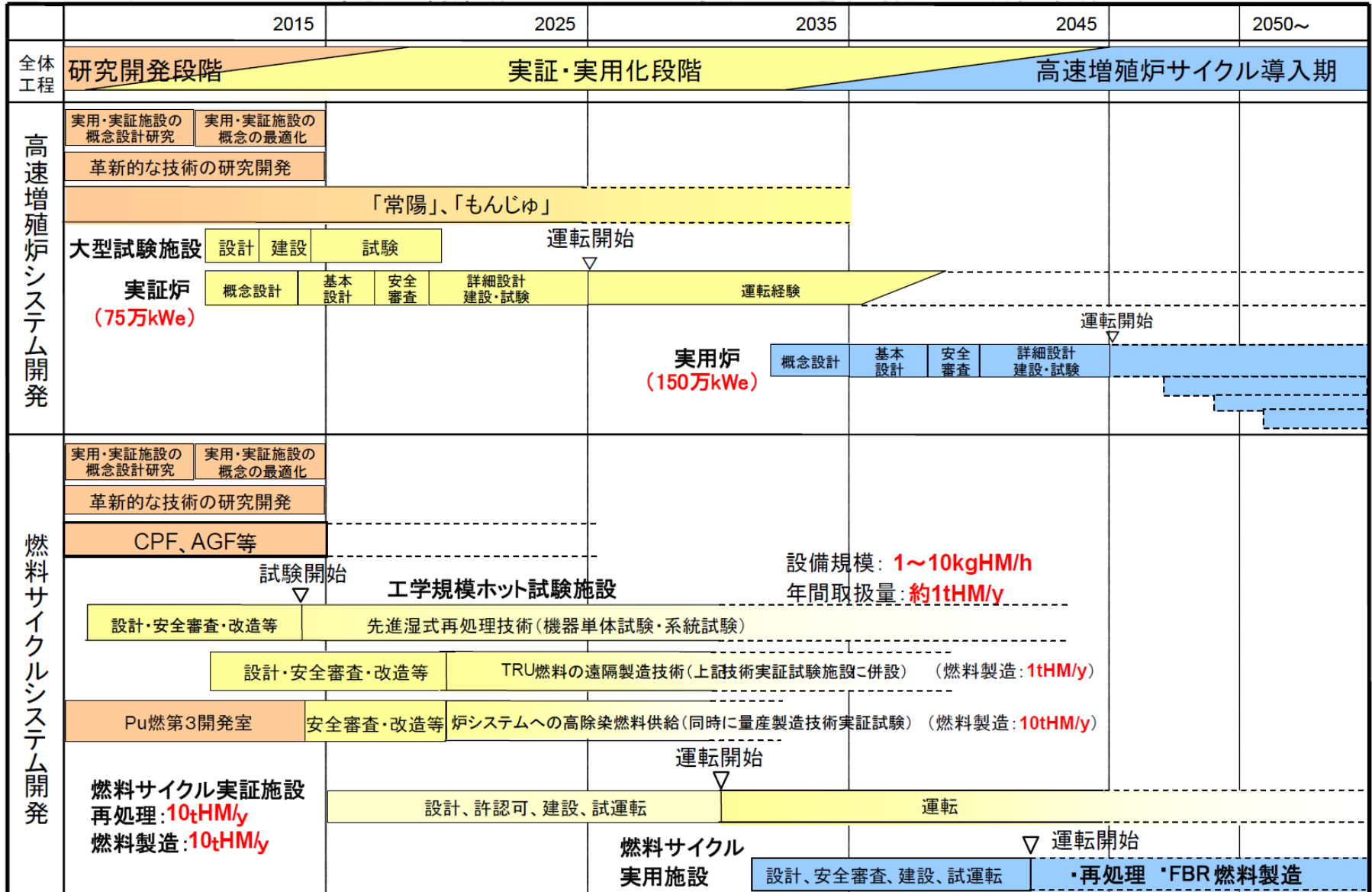
実用化戦略調査研究から実用化研究開発へ

- 2010年：採用する革新的な技術の決定
 - ・原子炉：13課題
 - ・再処理：6課題
 - ・燃料製造：6課題
- 2015年：実用化像と研究開発計画の提示
 - ・実証施設と実用施設(導入期及び平衡期)の概念設計
- 「もんじゅ」の運転再開と「発電プラントとしての信頼性実証」及び「ナトリウム取扱技術の確立を目指した運転経験の蓄積

研究開発の進め方

- ①安全の確保
- ②国際協力の推進
- ③研究開発体制
- ④研究開発の評価体制
- ⑤研究開発資源の確保
- ⑥説明責任を果たす活動の充実

高速増殖炉サイクルの実用化を目指した研究開発ロードマップ



※本ロードマップは2015年までの研究開発計画を作成するにあたり想定したもの